

## 国際規格対応 機械の安全設計のポイント

### 機械安全，電気安全，機能安全，北米安全

<b>協賛 (予定)</b>	日本電機工業会、安全工学会、エンジニアリング協会、化学工学会、中央労働災害防止協会、軟包装衛生協議会、日本機械工業連合会、日本鍛圧機械工業会、日本金属プレス工業協会、日本クレーン協会、日本高圧力技術協会、日本工作機械工業会、日本食品機械工業会、日本信頼性学会、日本製パン製菓機械工業会、日本電気計測器工業会、日本電気制御機器工業会、日本非破壊検査協会、日本プラントメンテナンス協会、日本包装技術協会、日本ロボット工業会、農業食料工学会、腐食防食会																																					
<b>開催日</b>	2020年2月7日(金曜日) 10:00～17:00																																					
<b>会場</b>	一般社団法人 日本機械学会 会議室 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地信濃町煉瓦館5階 <a href="https://www.jsme.or.jp/about/about-jsme/access/">https://www.jsme.or.jp/about/about-jsme/access/</a>																																					
<b>主旨</b>	<p>リスクアセスメントを実施し、リスクを受け入れ可能なレベルに低減させた機械を設計・製造することは、機械メーカーの責務である。このために、機械の安全要求標準化がISO, IECを中心に進められており、わが国でも日本工業規格(JIS)として発行されている。</p> <p>機械メーカーとしては、仕向け地で使用されている機械安全の標準に従って機械を設計しなければならないが、「国際標準の理解・解釈に時間を要する。仕向け地で受け入れられるのか心配である。」などの声が、現場から寄せられている。</p> <p>当講習会では、国際標準を用いた、機械設備設計者、ユーザー及び評価実務の第一人者が、機械の安全設計を行う際に問題となる点を、事例を交えて解説する。</p> <p>JIS/国際規格に沿って機械の安全設計および品質保証を担当されている実務者のスキルアップに重点を置いております。</p>																																					
<b>演題</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><b>1. 機械安全・機能安全規格の最新動向と機械エンジニアのための機能安全事例</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">午前開演</td> <td style="text-align: center;">10:00～10:05</td> </tr> <tr> <td style="width: 30%;">1) 安全規格動向 機械安全・機能安全の最新動向</td> <td>機械安全の国際規格エキスパートによる機械設計に関連する機械安全・制御安全・機能安全の最近の動向について分かり易く解説する。</td> <td style="text-align: center;">10:05～10:55 テュフラインランド 杉田 吉広</td> </tr> <tr> <td>2) 機械エンジニアのための機能安全入門</td> <td>欧州機械指令ではパフォーマンスレベル(PL)の表示が2012年から義務付けられ、機能安全の理解無しにはPLへの対応が難しくなっている。CEマーキングを始めとする国際安全規格対応の要点を解説し、午後の講習「第三者評価の実務例」の導入編として最適な内容となっている。</td> <td style="text-align: center;">11:00～11:50 富士電機 戸枝 毅</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;"><b>2. 機械安全設計のポイント</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">午後開演</td> <td style="text-align: center;">13:00～13:05</td> </tr> <tr> <td>1) ケース1: 機械安全設計のポイント</td> <td>厚生労働省で示されている機械安全設計の指針「機械の包括的な安全基準に関する指針」に基づいて機械設計者が実施するための機械安全設計のポイントについて設計事例を交えて説明します。</td> <td style="text-align: center;">13:05～14:00 東レエンジニアリング株式会社 谷口 満彦</td> </tr> <tr> <td>2) ケース2: 機能安全設計のポイント</td> <td>機械のリスク低減方策として機能安全を適用する際に重要なコンセプト設計のポイントをISO 13849-1, IEC 62061に基づいて解説します。</td> <td style="text-align: center;">14:05～14:55 テュフズード ジャパン 松前 貴志</td> </tr> <tr> <td colspan="2">休憩</td> <td style="text-align: center;">14:55～15:05</td> </tr> <tr> <td>3) ケース3: 電気安全設計のポイント</td> <td>国内で使用実績のある電気・電子機器がCEマーク対応または国外出荷対応時の典型的な指摘事例と対策事例を紹介し、実際の事例を照会しながら国外向けで安全に関わる電気・電子設計コンセプトと設計のポイントを解説します。</td> <td style="text-align: center;">15:05～15:55 テュフラインランド フエンテス・アドリヤン</td> </tr> <tr> <td>4) ケース4: 北米安全設計のポイント</td> <td>産業機械の制御盤を評価する際に用いられる規格、UL508A 3rd Editionを中心に、実際にあった不適合事例も交えながら設計のポイントを説明します。</td> <td style="text-align: center;">16:00～16:50 UL ジャパン 今村 康敬 山本 進</td> </tr> <tr> <td colspan="2">質疑応答及びディスカッション</td> <td style="text-align: center;">16:50～17:00</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><b>※事情により演題が変更となる場合もございます。予めご了承下さい。</b></p>		<b>1. 機械安全・機能安全規格の最新動向と機械エンジニアのための機能安全事例</b>			午前開演		10:00～10:05	1) 安全規格動向 機械安全・機能安全の最新動向	機械安全の国際規格エキスパートによる機械設計に関連する機械安全・制御安全・機能安全の最近の動向について分かり易く解説する。	10:05～10:55 テュフラインランド 杉田 吉広	2) 機械エンジニアのための機能安全入門	欧州機械指令ではパフォーマンスレベル(PL)の表示が2012年から義務付けられ、機能安全の理解無しにはPLへの対応が難しくなっている。CEマーキングを始めとする国際安全規格対応の要点を解説し、午後の講習「第三者評価の実務例」の導入編として最適な内容となっている。	11:00～11:50 富士電機 戸枝 毅	<b>2. 機械安全設計のポイント</b>			午後開演		13:00～13:05	1) ケース1: 機械安全設計のポイント	厚生労働省で示されている機械安全設計の指針「機械の包括的な安全基準に関する指針」に基づいて機械設計者が実施するための機械安全設計のポイントについて設計事例を交えて説明します。	13:05～14:00 東レエンジニアリング株式会社 谷口 満彦	2) ケース2: 機能安全設計のポイント	機械のリスク低減方策として機能安全を適用する際に重要なコンセプト設計のポイントをISO 13849-1, IEC 62061に基づいて解説します。	14:05～14:55 テュフズード ジャパン 松前 貴志	休憩		14:55～15:05	3) ケース3: 電気安全設計のポイント	国内で使用実績のある電気・電子機器がCEマーク対応または国外出荷対応時の典型的な指摘事例と対策事例を紹介し、実際の事例を照会しながら国外向けで安全に関わる電気・電子設計コンセプトと設計のポイントを解説します。	15:05～15:55 テュフラインランド フエンテス・アドリヤン	4) ケース4: 北米安全設計のポイント	産業機械の制御盤を評価する際に用いられる規格、UL508A 3rd Editionを中心に、実際にあった不適合事例も交えながら設計のポイントを説明します。	16:00～16:50 UL ジャパン 今村 康敬 山本 進	質疑応答及びディスカッション		16:50～17:00
<b>1. 機械安全・機能安全規格の最新動向と機械エンジニアのための機能安全事例</b>																																						
午前開演		10:00～10:05																																				
1) 安全規格動向 機械安全・機能安全の最新動向	機械安全の国際規格エキスパートによる機械設計に関連する機械安全・制御安全・機能安全の最近の動向について分かり易く解説する。	10:05～10:55 テュフラインランド 杉田 吉広																																				
2) 機械エンジニアのための機能安全入門	欧州機械指令ではパフォーマンスレベル(PL)の表示が2012年から義務付けられ、機能安全の理解無しにはPLへの対応が難しくなっている。CEマーキングを始めとする国際安全規格対応の要点を解説し、午後の講習「第三者評価の実務例」の導入編として最適な内容となっている。	11:00～11:50 富士電機 戸枝 毅																																				
<b>2. 機械安全設計のポイント</b>																																						
午後開演		13:00～13:05																																				
1) ケース1: 機械安全設計のポイント	厚生労働省で示されている機械安全設計の指針「機械の包括的な安全基準に関する指針」に基づいて機械設計者が実施するための機械安全設計のポイントについて設計事例を交えて説明します。	13:05～14:00 東レエンジニアリング株式会社 谷口 満彦																																				
2) ケース2: 機能安全設計のポイント	機械のリスク低減方策として機能安全を適用する際に重要なコンセプト設計のポイントをISO 13849-1, IEC 62061に基づいて解説します。	14:05～14:55 テュフズード ジャパン 松前 貴志																																				
休憩		14:55～15:05																																				
3) ケース3: 電気安全設計のポイント	国内で使用実績のある電気・電子機器がCEマーク対応または国外出荷対応時の典型的な指摘事例と対策事例を紹介し、実際の事例を照会しながら国外向けで安全に関わる電気・電子設計コンセプトと設計のポイントを解説します。	15:05～15:55 テュフラインランド フエンテス・アドリヤン																																				
4) ケース4: 北米安全設計のポイント	産業機械の制御盤を評価する際に用いられる規格、UL508A 3rd Editionを中心に、実際にあった不適合事例も交えながら設計のポイントを説明します。	16:00～16:50 UL ジャパン 今村 康敬 山本 進																																				
質疑応答及びディスカッション		16:50～17:00																																				
<b>司会</b>	機械安全実践技術促進会 代表 畑 幸男																																					
<b>定員</b>	50名(定員になり次第締め切ります)																																					
<b>聴講料</b>	会員及び共催、協賛団体会員 6,000円(学生員 3,000円) 会員外 9,000円(一般学生 4,000円)																																					

	<p>いずれも当日配布資料 1 冊分代金を含みます。開催日の 10 日前までに聴講料が着金するようにお申し込み下さい。</p> <p>以降は定員に余裕がある場合のみ当日受付いたします。        なお、ご入金後はお申込者様のご都合による聴講料の返金できませんので、ご注意願います。</p> <p>※学生員から正員資格へ変更された方は、卒業後 3 年間、本会講習会への聴講は学生員価格にて参加が可能です。下記申込先フォームの会員資格は「正員(学生員から正員への継続特典対象者)※学生員として入会后、正員継続 3 年の以内の方」を選択し、卒業年と卒業された学校名を通信欄に記載下さい。</p>
<p><b>配布資料</b></p>	<p>配布資料のみの販売はありません。</p>
<p><b>申込方法</b></p>	<p><a href="https://www2.jsme.or.jp/fw/index.php?action=kousyu_index&amp;gyojino=19-395">https://www2.jsme.or.jp/fw/index.php?action=kousyu_index&amp;gyojino=19-395</a>        からお申し込み下さい。        ※ご入金後はキャンセルのお申し出があってもご返金できませんので、ご了承下さい。        ※領収書がご入り用の場合には、  <a href="https://www.jsme.or.jp/japanese/contents/02/receipt.html">https://www.jsme.or.jp/japanese/contents/02/receipt.html</a>        をご参照の上、別途お申し込み下さい。</p> <p>※特別員の資格（会員扱い）で行事に参加する場合、特別員行事参加無料券をご利用の場合は、上記お申込み URL に詳細が記載されておりますのでご参照下さい。</p> <p>(問い合わせ先 産業・化学機械と安全部門 担当職員 滝本 電話 (03) 5360-3510</p>